
すずむし

SUZUMUSHI

Vol. 5 No. 8

1955年10月

倉敷昆虫同好会

	目	次	頁
○	久米郡ニ上山	安江安宣	1
○	熊山に登る	赤枝一弘	3

採集記

久米郡ニ上山

安江安宣

ニ上山(標高 689.2m)は久米郡の最高峯であつて岡山市の真北60料、津山市の西南20料のところをそびえており、岡山県の地図をひらげてみると大体県の中央に位置している。私は数年前に岡山県における茄子科植物害虫であるマダラテントウ類の分布調査をしたことがあつたが、その時からこの山頂附近(標高約600m)の畑にはその高度の關係から寒地性のオオニジュウヤホシテントウ *Epilachna vigintioctomaculata* Motschulsky が棲息している可能性があつて、気になつていたのであるが訪ねる機会もなく今日にいたつた。1955年9月5日、津山線龜甲駅にガソリンカーをおりたのが午前10時。しばらくまって警察署前から津山始発の大井船行の中鉄バスにのること30分。ニ上山の東山麓にあたる旧打穴村宮代口でバスを捨てる。道路傍のほりに汚れた茄子畑では多数のニジュウヤホシテントウ *Epilachna sparsa* (Herbst) をとつた。

御留所から宮代の部落に向つてニ上山からくる小川を溯り、部落を通りすぎると神社の森が小川の出口にあるが、ニ上山に登るには神社に向つて右側の谷を地図(5万分之1地理調査所地図「福渡」参照)上の点線路にしたがつてのぼればよい。私は左側の谷の方が大きくて、小道もはっきりしていたのでつうっかりとこれに入りこんでしまい、時間的にかなり損をしてしまった。神社のところは標高240mある。山は赤松と瀬葉櫟の混交林で、谷をかなりのぼりつめて400mくらいのところになつてもニ上山頂の直下にある筈の部落にこないので、はじめて谷を一つとり違ふたことに気がついたが、陽はまだ高いし、迷つたところでしれられていると思つたので、谷筋から真北の方向に雑木林の下の藪をくぐつ

て尾根の上にとりつくことにした。笹の下算のなかでクロヒカゲ *Lethe diana* Butler をとる。猛烈な藪くぐりを又探りで味うこと約50分で尾根にでてみると伐採用の林道がチャンと走っているのにはがっかり。菜の定、谷をへだて、ニ上山が正面にそびえている。

山頂を仰ぎながら尾根づたいに谷頭をまわってゆくがこのあたりは高度580mほどあり、吹く山風も涼くて気持ちがいい。林道の両側にはヤマホトトギス *Tricyrtis macropoda* が実に深山映さみだれているのには驚いた。メスグロヒヨウモンのふらしいのを又匹みかけたがすぼしこいので割愛。のぼるにしたがって展望は開けて両山寺の部落に入るが高度は約600m。吉備高原独特の残丘上の耕作景観を呈している。茄子畑を片端しからみているが、めざすマダラテントウは姿をみせず、食痕はナスノミハムシ *Psylliodes angusticollis* Bay ばかり。

1本松の眺望のさく一角で昼食。通りがかった愛想のよい村の老人としばし雑談。こんな山の上でも何んとか町の何苗地になったとのこと。津山市をこえてはるか那岐山日本原の方向から迷霧のように自衛隊の実弾射撃が聞えてくる。この部落の一番高いところにある神社のあたり(標高約650m)から急にアシグロセンノウ *Lychnis Miqueliana* の朱色の花色が眼にしみるように増してくる。寺の境内でノシメトシボ *Sympetrum infuscatum* Selys を1匹つかまえた。ニ上山の頂上には西側から登路がつけてあり、標高689.2mの二等三角点がある。素晴らしい眺望で北方は国境の中国山脉、南は岡山北方にある金山(標高499m)をへだて、瀬戸内海が霞のなかに光ってみえている。

山頂から西南に1軒、約550mの高さのところに阿井組の部落があるが、この途中でウラズンシジミ、スジボソマヤギナヨウをみかけ、イチモンジチヨウ *Limenitis camilla japonica* Ménétries, モンギチヨウ *Colias erate poliographus* Motschulsky をとる。阿井組の部落の茄子畑にはマダラテントウ独特の食痕をみつけたので、腰を落つけてごっすり

探しにかゝると発見されたのはニジユウヤホシテントウの方であった。本種の岡山県における今までの垂直分布の最上限は私が1950年7月に高梁市の南方、吉備郡船和町にある維尼山の中腹、高間部落(標高500m)で採集したものであったが、ニ上山のものはこれをしのぐ新記録で、またこれを全国的にみても本種の分布上限にちかいかことになるのではないかと考えられる。こゝから南側を下って旧大井和村の役場のところから津山行のバスにのれば歩く区間は短いのだが、往路と同じコースを面白くないので西南方の谷を旭川ダムにむかってくだること約1里半、栃原にて福筏行の中鉄バスで新築のダム湖畔を福筏駅についたのが午後6時であった。



熊山に登る 赤枝一弘

夏休みを利用して熊山へ登ってみたが、何ら珍しい昆虫は採れなかった。頂上に於ても蝶などほとんどおらず、ただヒグラシが今最盛期であろうか、おりがらの曇りにさかんに鳴きだしていた。蝶としては西大寺に産しないクロシジミが多かった。なお熊山の隣りの大滝山で小学生がミヤマカミキリを採っていた。また熊山の下の色久郡香登町でクロツバメを1頭採集した事を附記しておく。7月21日に登りコースは西大寺→ニの樋→香登→熊山、国鉄熊山駅で降りるよりも香登より登った方が歩かずにすむ。又隣りの大滝は道もよいし寺には国宝の三重の塔等もあるが先にも書いたとおり虫はあまりいない。

編集後記

いつも遅れたお詫びばかりで申分けありません。今月も、又々お詫びを重ねなければならぬようございませぬ。今月は採集記を2つ。楽しく読んでいただければ幸いです。次号は直ぐに出る予定です。餘々に遅れをとりもどせたいと思っております。

すずむし 第5巻第8号 昭和30年10月22日印刷
昭和30年10月22日印刷

編集兼 倉敷市待老町 岡山大学農芸生物研究所
発行者

寄出部第二研究室内

倉敷昆虫同好会